

入間川地区中学校統廃合検討協議会第1回会議録

- ・開催日時 平成23年1月31日(月) 午後6時30分～8時00分
- ・開催場所 狭山市役所3階302会議室
- ・出席者 18名(欠席者2名)
- ・事務局 教育長 生涯学習部長 次長兼教育総務課長 学校統廃合担当課長 同担当主任 学校教育部参事兼教育指導課長 入間川地区センター主幹
- ・傍聴者 1名

【会議内容】

1 開 会

2 委員の委嘱

3 教育長あいさつ

4 会長の互選及び会長あいさつ

船田朋美委員が会長に互選される。

5 副会長の指名及び副会長あいさつ

小島晃委員が副会長に指名される。

6 議 事

(1) 入間川地区の中学校の統廃合について

(事務局) ——— 配付資料説明 ———

※『狭山市立小・中学校の規模と配置の適正化に関する基本方針』

(委員) 基本方針は平成19年策定ということですが、現在までに新たに耐震工事を実施した学校を教えてください。

(事務局) 17ページにあります。入間川中学校につきましては平成21年度に

耐震補強工事を実施しております。

(委員) この基本方針は、例えば変更するという事は可能なのでしょうか。

(事務局) この基本方針は、教育委員会会議の議決に基づいて決定したものです。内容を変更することは可能ですが、それには改めて議決をとる必要があります。

平成19年当時と現在とでは生徒数に若干のズレがありますが、そのあたりの見直しはさせていただいております。15ページにあります2.19の数値は、現状の算定では2.18ということで大きなズレは生じておりませんので、教育委員会としては今のところ基本方針を見直す必要性はないと考えております。

(委員) 1クラスあたりの生徒数が現状の38人もしくは40人で計算されていますが、今後もこれを基に検討していくということですか。

(事務局) 35人学級の動きがありますが、まだ決まったわけではありませんが、資料的には、中学1年生は38人、中学2年生と3年生は40人で算出しております。

(委員) 15ページに、入間川地区で統廃合の検討が必要な中学校の数は1校とありますが、位置的にみれば、東中か中央中がなくなる可能性が大といえますよね。

(事務局) そういうこともありますが、その事に関しましては、他にもいろいろな条件がありますので、それらを総合的に踏まえたうえで今後ご検討いただければと思っております。

(事務局) ——— 配付資料説明 ———

※『入間川地区の中学校の統廃合について』

(委員) 部活動がない理由としては、人数が少なくて成り立たないということと、生徒の興味の問題とがあると思うのですが、この4ページの表は、理由はともかく部活動のあるなしを示しているということですね。

(事務局) はい、そうです。

(委員) 狭山市の現状としては、例えばサッカー部なども今は10校すべてにあるというわけではありません。入間川地区に限らず全市的に少子化の影響は出ています。

(委員) 3ページを見ると、東中は校舎が古くて耐震補強工事も実施していないのがわかります。ただ、9ページを見ると、西中は東中より校舎が古いのに耐震補強工事を実施しています。この辺は何か意味があるのでしょうか。

(事務局) 東中につきましても耐震診断は既に行っており、耐震補強工事の必要性があるとの診断結果が出ております。当初は23年度までに工事を完了させる予定でしたが、ここで中学校の統廃合を検討していくことが教育委員会の方針として決まりましたので、ここでの検討協議の結果を踏まえたうえで判断させていただきたいということです。耐震補強工事の設計は既にできているのですが、少し見合わせさせていただいているという状況です。

東中につきましては、耐震強度がとくに弱い箇所がありましたので、その部分に関しましては、耐震指標である I_s 値を0.3程度まで引き上げるための耐震スリット工事を実施いたしました。また、普通教室を強度の弱い棟から外すなどの善後策をとらせていただいております。

(委員) ソフト面も大事ですが、校舎などのハード的なものは極めて重要だと思っています。

「議会だより」にもありましたが、東中は、7億3千700万円かかる耐震補強工事をして、あと10数年しか持たないそうですが…。

(事務局) 鉄筋コンクリート造の耐用年数は、一般的に50年とか60年とか言われていますが、使い方や補修の仕方次第で一概には言えないところがあるようです。

(委員) 第3次狭山市総合振興計画の中期基本計画には、入間川・沢地区の整備について書かれており、「新たな住宅地の形成に向けて、整備手法の検討を進め基盤整備の促進を図る」とあります。今度の後期基本計画では、入間川・沢地区の整備については「生活に便利で自然と調和のとれた住宅地区の形成」ということが提言書として出されると思います。

ます。

5 ページに生徒数の 28 年度推計が出ていますが、これは人口の自然減少率からみた人数なのでしょうか、それとも入間川・沢地区の整備による人口増加を加味したうえでの減少率なのでしょうか。

(事務局) 入間川・沢地区の整備による人口増加は加味しておりません。

この推計は、平成 22 年 5 月 1 日現在の年齢別人口を基に生徒数及び学級数を推計したもので、翌年以降は年齢を 1 歳ずつ進行させて作成したものです。

(委員) 本当は、そういうところも含めないと、東中と中央中のどちらを廃校にするかという結論は、なかなか出てこないのかなとは思っています。

(議長) 他に質問がなければ、今後の進め方について事務局から説明をお願いします。

(事務局) 今日は現状の確認をさせていただきましたが、今後は統廃合の必要性の確認をしていきたいと考えております。統廃合が必要であるとの結論が出た場合には、その後は対象校の選定、通学区域の見直しに移っていききたいと考えております。通学区域の検討にあたりましては、関連してくる小中学校の関係者に本会議への参画を促していきたいと考えております。そういった中で、統廃合により発生する課題の抽出、それらを解決するための方法などを検討していきたいと考えております。そして、それらの検討内容を最終的には統廃合計画としてまとめたいと考えております。

なお、跡地利用に関しましては、統廃合の対象校も決まっておられませんので、市としては白紙の状態です。このことにつきましても検討課題の一つと考えております。

(委員) この会議は何回くらい開かれるのですか。

(事務局) 小学校の統廃合のときは、2 か月に 1 回くらいのペースで開催させていただきます。

予定としては、今年の秋頃までには具体的な統廃合の枠組みが決まればよいと考えております。

7 閉 会

【配付資料】

- ◆ 狭山市立小・中学校の規模と配置の適正化に関する基本方針
- ◆ 狭山市入間川地区中学校統廃合検討協議会設置要綱
- ◆ 入間川地区中学校統廃合検討協議会委員名簿
- ◆ 入間川地区の中学校の統廃合について
- ◆ 小・中学校通学区域図(A3 版)